



實性

平成二十四年 第一号 お正月発行

賀

壬辰元日



平成二十四年の新春を迎え、
謹んで至心に篤い三宝を誦し、
併せて檀信諸各位の
ご平安を祈念申し上げます。

寺族(住職妻) 執事 類
寺族(住職妻) 同法 副住職 職
筆頭総代

修正会

一年の健康と幸せをお祈りする法要です。

日 に ち
時 間

一月三日(火)
十一時

当寺本堂

十二時より客殿にて新年会

☆ 一年の心願成就の

ご祈願の為に、

お札・お守り・絵馬を
ご用意しております。

ご希望の方は、

お申し出下さい。



辰歳にちなみ

方角で言うと東南東、陰曆三月の異称、時刻では午前八時でもあります。十二支のうち唯一想像の動物「辰」は「蜃」が原字にて、「振」「震」の意味を持ち、動いて伸びる整うと意味し、草木が盛んに成長し、形が整った状態を表しているようです。

「辰」が「龍」としたのは、十二支をわかりやすくするために動物に充てたとされています。

いくつかの「龍」にまつわることわざを紹介致します。

一、雲燕龍変（うんじようりゅうへん）

雲が湧き上がり、龍がそれに乗つて、不思議なはたらきをする

一、龍は一寸にして昇天の氣あり

俊才は幼い時分から非凡なところがある

一、龍に翼を得たる如し

もともと強い龍に翼を与えれば更に威力を添えること

一、龍の雲を得る如し

龍が雲を得て天に昇るよう

一、臥龍鳳雛（がりようほうす）

優れた人物が好機をつかめず世間に隠れていること

一、龍頭蛇尾

始めは盛んであるが終わりが振るわないこと

一、登龍門

黄河に集まる多くの鯉のうち急流を登れるものもあれば滝に化する難関関門を表す



嵯峨面

浄土宗特別寺院・京都嵯峨
清涼寺に伝わる、

嵯峨狂言に使われた面を

復刻した民芸品です。

古い和紙を使い、

趣のある面です。

客殿の壁面に飾つてあります。



伏見焼

京都伏見稻荷に
伝わる焼物です。

現在、ただ一軒のみ

残る土物の人形です。

客殿の床の間に飾つてあります。



台風十五号

関東地方にも大きな害をもたらした台風十五号でしたが、実性寺におきましても、大きな被害が出ました。

樹齢百年以上となります境内の大イチョウ、春は緑に輝き、秋には多数の銀杏を実につけ、黄色の絨毯をひきつめたような落葉、そんな四季の風情を感じさせる大イチョウですが、台風の暴風により、上より数メートルの所から折れてしまい、その木々が本堂の屋根にあたり、数十枚の瓦が割れてしまいました。

お寺の特殊な屋根瓦ということもあり、すぐに注文いたしましたが、大震災の影響は大きく間に合いませんでした。一時は、雨が漏つてしましましたが、やっと、修復できました。屋根瓦の修復に、保険が適用されましたので、一安心でした。

イチョウの木は、上部が折れ、少し形が変わっています。

平成二十四年度 年間行事予定

一月 三日(火) 修正会
二月 十五日(水) 涅槃会
三月 二十日(祝) 春季彼岸会回向
四月 八日(日) 花まつり

花まつり実性寺寄席
施餓鬼会
蓮見の会
七月 盂蘭盆会回向
送り火
八月 盂蘭盆会回向

五月 二十六日(土) 修正会
六月 十四日(土) 吉日
十六日(月) 花まつり実性寺寄席

七月 十三日(月) 修正会
八月 二十二日(祝) 吉日
十六日(木) 花まつり実性寺寄席
九月 二十二日(祝) 吉日
秋季彼岸会回向
送り火
実性寺寄席

実性寺寄席

四月八日の実性寺寄席は、東日本大震災により中止致しましたが、第十回「実性寺寄席」が、十月二十三日(日)六時より開催されました。

大勢の方にご来寺いただき楽しんでいただきました。総代様、暁月会の皆様のお力添えに感謝申し上げます。

第十一回は花まつりの一環として、

四月八日(日) 午後六時より、

お釈迦様のお誕生日に開催いたします。

東日本大震災仏具修復

檀信徒皆様の貴重なる淨財をもちまして、御本堂仏具・灯籠・花立・木花・灯立・香炉が新しく制作されました。本堂壁面、壇、他の仏具も一応の修復をみました。二十三年度中に納入され、新年を迎える修正会では、新しい仏具で法要が行われます。大震災というこの大変な時期に、淨財をお願い致しました事申し訳なく存します。皆様のご厚情深く感謝申し上げます。